

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第14号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第14号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R5 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R5 (hr)	平年比 (%)
8月	1	28.3	31.1	2.8	33.4	37.7	4.3	24.5	26.2	1.7	29.3	0.0	0	35.5	55.0	155
	2	28.2	29.7	1.5	33.3	34.2	0.9	24.5	26.8	2.3	30.0	70.5	235	34.7	22.1	64
	3	28.0	28.2	0.2	33.0	33.5	0.5	24.4	24.3	-0.1	32.8	0.0	0	32.8	49.1	150
	4	27.6	28.4	0.8	32.6	33.5	0.9	24.1	25.1	1.0	35.0	21.0	60	31.4	27.6	88
	5	27.1			32.2			23.5			37.9			30.1		
	6	26.4			31.5			22.8			48.6			34.3		

○8月4半旬の平均気温は平年に比べて0.8℃ほど高く、降雨量は少なく、曇天傾向で推移した。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：8月22日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
さがびより 6/22移植 武雄市橋町	本年値	84.5	384	14.4	36.4	<ul style="list-style-type: none"> 草丈、茎数は平年並み。 主稈出葉数は平年より0.5葉多い。止葉葉位14.4Lであり、平年に比べて0.2葉多い（止葉葉位 平年 14.2L） 葉色は平年より濃い。 現在、葉耳間長 +4~8cm 葉耳間長からみた出穂予想日は8月28日頃（出穂期 平年8月30日）
	平年値	85.5	377	13.9	34.6	
	平年比	99	102	+0.5	+1.8	

※さがびよりの平年値はH21~R4の平均値。 耕種概要は稲作情報第9号参照

3. 今後の管理

(1) 夢しずく（普通期）

○現在、乳熟期である。

- ・ 穂揃い期以降は間断灌水を行い、土壌を固めると共に根の活性化を図る。（土が柔らかい圃場では、間断灌水の断水期間を長めにし土を固める。）
- ・ 出穂期以降の積算温度による刈取り予想表は別紙参照。

(2) 普通期水稻

○現在、生育ステージは幼穂形成期～出穂期である。

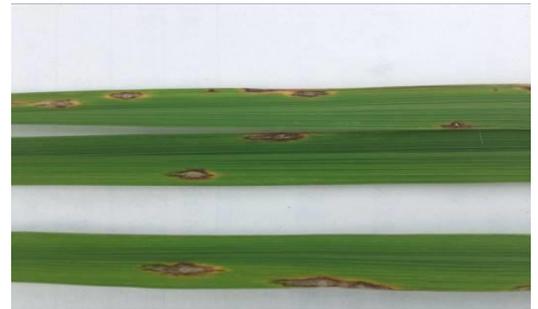
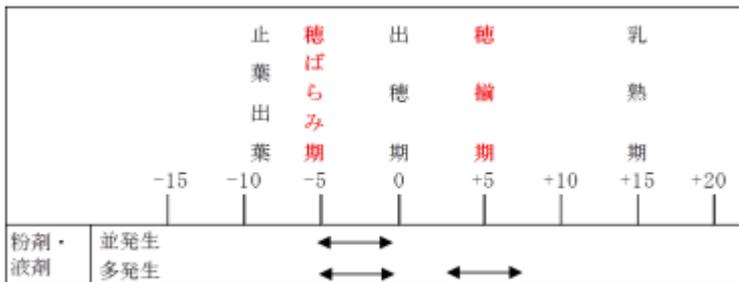
- ・ 幼穂形成期から穂揃期にかけては要水量が増加する時期ですが、湛水状態を長く行くと田面がやわらかくなることと根を傷めるので引き続き間断灌水を行う。
- ・ 草丈が高く葉色が濃くうっぺいした圃場を散見する。そのような圃場では、「葉いもち病」の病斑を確認している。上位葉に病斑を確認したら発生程度等によっては穂孕期による薬剤防除を行う。

(3) 病害虫対策

1) いもち病

- ・葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底する。発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂揃い期にも臨機防除を行う。なお、薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。
- ・葉色が濃い圃場で、進展型病斑を確認している。

【穂いもちの防除時期】



いもち病 (停止型)



いもち病 (進展型)

2) ウンカ類

- ・本年は、6月30～7月3日頃、7月7日～9日頃にトビイロウンカの飛来が確認されている。8月の気温は平年より高いと予想されており、今後増殖する恐れがあるため、本田防除の適切な実施が極めて重要である。なお、圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

※ なお、トビイロウンカにおける各世代の発生予測は、その後の気温等により若干変わるので、最新データは、佐賀県農業技術防除センターHP等を参照する。

- ・また9月上～中旬に老齢幼虫および成虫の合計数が1株あたり5頭以上みられる圃場では、次世代の幼虫ふ化揃い期に臨機防除を実施する。

《参考 ウンカ類の25株払い落とし調査結果》

調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月22日							
6/8播種	51	19	2	2	18	7	さがびより(白石町) ※ゼクサロン系無施用、7/25スタークル
6/17移植	65	5	4	0	13	5	夢しずく(江北町) ※ゼクサロン系無施用
6/20移植	2	1	0	0	1	0	ヒノヒカリ(白石町)
6/22移植	4	0	0	0	2	0	さがびより情報田 8/4へり防除

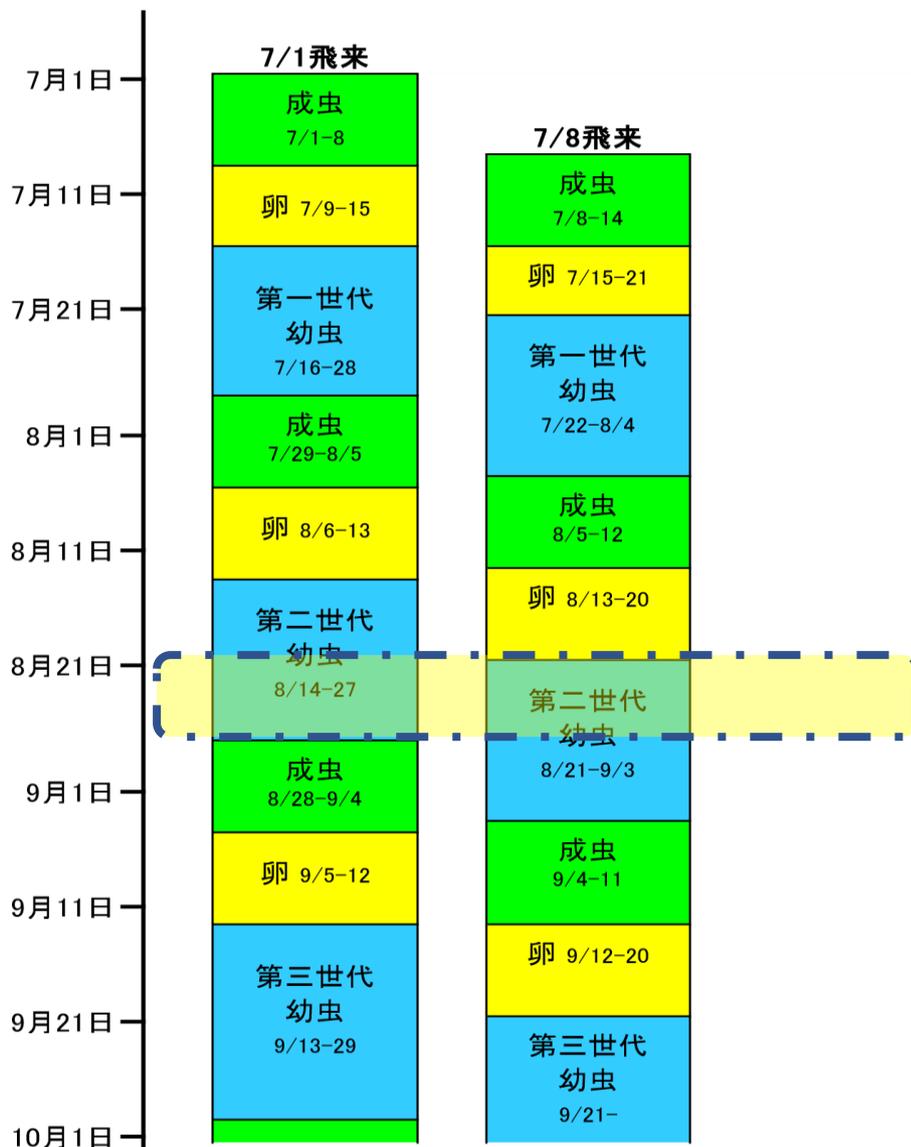


図 トビイロウンカ各世代の発生予測(第3版、2023年8月16日作成)

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(8月16日以降は平年値)を基に作成した。その結果、第3版は第2版に比べ、各飛来虫のその後の発生時期(予測)は1日遅くなった。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

3) 斑点米カメムシ

- ・ 斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期(穂揃い後10日目頃)の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。
発生が多い圃場では穂揃い期(出穂後5日目頃)と乳熟期の2回防除を実施する。
- ★多発生の目安 ⇒ 20回のすくいとり調査でカメムシが5頭以上の場合(穂揃期～乳熟期)
- ・ 出穂10日前までの畦畔除草は、耕種の防除の観点から効果的である。カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。
畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。

管内における斑点米カメムシの20回すくいとり調査(8月22日)

地区	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		ミナミアオカメムシ		アカスジカスミカメ		シラホシカメムシ	
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
夢しずく(6/10移植)	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1
夢しずく(6/17移植)	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0

4) 紋枯病

- ・ 8月幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。
今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・ 8月10日以降の現地巡回において本病の発生圃場を確認しており、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量も平年並みから多い見込みであり、本病の発生に好適である。
- ・ 本病は、上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。
(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病